

「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」 災害派遣セミナーを開催しました (2019/12/1, 7)

テーマ：災害派遣、調整、受援

場 所：福島県立医科大学（福島県福島市）、東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市）

2019年12月1日（日）と12月7日（土）に、福島県福島市の福島県立医科大学および宮城県仙台市の東北大学災害科学国際研究所で「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」災害派遣セミナーを実施しました。福島県、宮城県の保健医療従事者（医師、歯科医師、看護師、薬剤師、放射線技師、事務職員）、行政職員ら合わせて20名が受講しました。

災害時には様々な枠組での支援チームが被災地に派遣されます。支援チーム派遣においては、根拠となる法制度、目的・活動内容を明確にし、派遣元・先での調整をうまく実施する必要があります。また支援者は受援者の状況、ニーズを踏まえた確かな支援を行う必要があります。佐々木宏之准教授（災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野）は災害医療センター 災害医療部 福島復興支援室 小早川義貴医師とともに、災害派遣を考える際のポイントを12項目にわたって解説しました。また講師として石川敏仁医師（杵記念病院災害救急医療部）、久保芳宏氏（日本赤十字社福島県支部）、柴田智行医師（きぬ医師会病院）、谷かおり保健師（呉市保健所）を迎え、過去の災害時に支援、受援を経験した保健医療従事者の講義を受け、最後に望ましい派遣の在り方についてグループディスカッションを行いました。

「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」では年間を通じ、災害保健医療に関するさまざまな講演、実習を実施しています。佐々木宏之准教授は、プログラム運営企画委員会委員・実習コーディネーター、講師として運営に携わっています。今後は12月14日（土）、15日（日）に災害急性期活動実習（BHELP）が当研究所で予定されています。

年間の講義予定は「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」HP (<https://www.dcmd.hosp.tohoku.ac.jp/curriculum/entry/>)に掲載されており、オープン参加として履修生以外の参加も受け付けています。



法制度、派遣の概説を学ぶ

派遣を考える際のポイント	
1. 根拠	7. 期間、派遣その後
2. 目的と活動内容	8. 費用支弁
3. 調整	9. 安全
4. 派遣元	10. 教育と標準化
5. 派遣先	11. 多組織・機関連携
6. 時期	12. 受援支援関係

派遣を考える際のポイント



災害医療センター 小早川医師



台風19号時の谷病院支援を解説する石川医師



鬼怒川氾濫時の受援経験を解説する柴田医師



西日本豪雨時の受援経験を討議する谷保健師（中央）

文責：佐々木宏之（災害医学研究部門）